

渋川市こども発達相談室ニュース 2022年11月号

～朝夕冷え込んできましたね、山々が紅葉してきているのがほっとプラザからも見えます～

発達特性のあるお子さんへの習い事問題について考えてみた。

●習い事のきっかけ

お友達が習っていて楽しそうだから、お友達に誘われたから、ただただやってみたくいから等々きっかけは皆さん様々です。また、我が子のこういうところを伸ばしたい、苦手なところを補いたい、といった親としての気持ちから始まることもありますよね。では、いざ習い事を始めようとした時にどんなふうに決めていけば良いのか、いくつかポイントを考えてみました。

「お子さんにも保護者の方にも、気持ちに余裕はある？」

園や学校で既に疲労困憊、親も仕事の調整が難しい、そんな時は焦らず時期を待ちましょう。習い事はモノによっては送迎が必要だったり、自宅でも普段から練習や準備が必要だったり、思った以上に時間を要することがあります。

「続けることを前提にしない」

せっかく始めたんだからすぐにやめるなんてあり得ない！！なんて叱ってはいけません。いつかきっと楽しくなるに違いないというのは親のエゴかもしれません。お子さんが自らモチベーションを保てない習い事は続けても意味がありません。断言。

「小さいうちは身体づくりが基本です」

早期教育で外国語、読み書き計算、それら全てが正しいとは思えません。手先が不器用、ボディイメージが弱い、多動傾向のお子さんには、まずは身体づくりをおすすめします。神経発達は背骨の中枢から末端（触覚、視覚、聴覚、味覚）へ繋がります。習い事ではなくても普段の公園遊びでダイナミックに遊ぶことが出来れば刺激になります。公園ではジャングルジム、ブランコ、鉄棒、うんてい等がおすすめです。水が好きなお子さんはプールも良いでしょう。

室内では雑巾がけレース、大人の膝にのせて大型バスの歌、お子さんの足を持って手押し車等、大人も一緒に触れ合いながら楽しめると良いですね。

「やはり、お子さんが興味関心のあるものを」

好きこそものの上手なれ、とは良く言ったもので、好きだから、楽しいからモチベーションが保てるのだと思います。お子さんが何に興味を持っているのか、どんな遊びが好きなのか、よくよく観察してみると案外見つけやすいかもしれません。

「人見知り、または人懐こいお子さんに合う習い事は？」

人見知りなお子さんは、おうちで発散する子もいれば、感情をため込む子もいます。普段から発散できれば良いのですが、それが難しい子は何らかの方法で「表現」できる場所を作ってあげましょう。例えばお絵描きや工作教室は表現する要素がたくさんあります。また、長期休暇中等に開催されるキャンプイベントもおすすめてです。自主的に動くよう求められることが多いので、たくましくなって帰ってきましたという話をよく聞きます。

人懐こいお子さんは、野球やサッカー等の定番スポーツで、仲間とチームプレイを通して人との距離感を学ぶことがおすすめです。ルールを覚えながら順番を待つ力も身に付きそうです。逆に、書道や書き方教室でじっと集中力を養うのも良いですが、やはりどこかで発散する時間を持てるとバランスが良いでしょう。

「やめ時ってどういうタイミング？」

毎回泣いて嫌がったり、石のように固まってしまうならば直ぐにでもやめてください。また、親がコーチをしている場合、お子さんがやめたい気持ちをうまく伝えられないことがあるかもしれません。本当に続けたいのかどうか、親子の会話で確認しながらできると良いですね。